

実績報告書

届出者	住所	東京都新宿区西新宿八丁目17番1号 住友不動産新宿グランドタワー	氏名	T I S株式会社 代表取締役社長 桑野 徹
特定事業者の主たる業種		39情報サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		情報処理サービスにおける、データ処理のアウトソーシング事業及びハウジング等のデータセンター事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	14,137 t-CO ₂	11,377 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,161 t-CO ₂	13,084 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)	
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%	
	レ	削減率(原単位ベース)	3.0%	-1.5%	-1.5%	-2.5%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.8%	-2.0%	-3.1%
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (CPU使用電力量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

データセンターとオフィスがあり、「温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値」をデータセンターはCPU使用電力量(MWh)、オフィスは延床面積(m²)とします。届出の手引きに則り【m²】→【MWh】の換算係数をH26実績値より0.078【MWh/m²】とする。 10129.4/721.5【m²/t-CO₂】=14667.3/13415.5【MWh/t-CO₂】 → 延床面積【m²】×0.078【MWh/m²】 = 面積あたりのCPU使用電力量【MWh】

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H29年度は、データセンターにてコンピューター機器の移設、撤去件数が増加し、総量としては、減少しています。ただし、温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(CPU使用電力量)が低下したことにより、共用設備の固定エネルギー比率が増加した為、基準年度(H26年度)に比べ原単位が悪化しました。</p>
--

(2) 推進体制

多様化する温暖化対策に向けて、TIS全社の省エネルギー推進を行うTIS省エネルギー推進会議ならびに、TISデータセンターの省エネルギー施策を推進するTISデータセンター省エネルギー推進会議にて温暖化対策推進に関する協議を行っています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	T I S 大阪センター	コード (1218) 高効率照明器具への変更	駐車場ランプの変更及び運用見直し B棟1階 駐車場17台の蛍光灯をHf蛍光ランプへ変更し、点灯時間の見直しも実施する。 (年間 3.3t-CO2を削減)	2017 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	T I S 大阪センター	コード (1218) 高効率照明器具への変更	LED照明器具への変更 A棟各階トイレダウンライトをLED照明器具へ変更する。 (年間 0.9t-CO2を削減)	2017 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	T I S 大阪センター	コード (1113) 空調環境改善	サーバー室空調環境改善 サーバー室における空調機稼働台数の適正化を図り消費電力を削減する。 (年間358.9t-CO2を削減済。施策継続中)	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	T I S (株) オフィス	コード (1216) 運用変更	空調温度の省エネ設定を実施 未稼働場所または未稼働時間の空調停止を徹底。 (年間 約3.0t-CO2削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	T I S (株) オフィス	コード (1218) 運用変更	未稼働場所や未稼働時間の消灯実施 (年間 約3.6t-CO2削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都板橋区坂下3-35-58	氏名	D I C株式会社 代表取締役社長 猪野 薫
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>・主な事業内容は印刷インキ、有機顔料、合成樹脂等の製造・販売である。国内事業所として本社、2支店・9工場、国内外に関係会社171社を有しており、大阪府内には堺工場と大阪支店がある。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	21,426 t-CO ₂	22,417 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	22,535 t-CO ₂	23,639 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率(原単位ベース)	3.0%	6.7%	3.4%
削減率(平準化補正ベース)		-	6.3%	3.1%	6.8%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は対策No1, 7, 8, 17, 18を実施。 ・生産量が基準年比112%の増加となり製品構成も高エネルギー製品が年々増加するなか、平成29年度も対策を計画的に進めたことによりエネルギー使用量の増加は基準年比106%の増加にとどまる。 ・結果、上記に加え関西電力のCO2係数が原発の稼働により下がったことも削減率7.1%を達成したと要因と考える。

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー管理体制として委員長、副委員長、委員、アドバイザー及び事務局（原動グループ）とエネルギー管理士で構成された省エネルギー推進委員会を組織。 ・定期的に省エネ推進委員会を開催し、堺工場全体の省エネ計画に対する実績と各部署の対策の進捗を確認。 ・省エネ推進委員を通じ、各部署のエネルギー管理、省エネ施策の推進、夏季と冬季の昼間の節電推進、エネルギー管理標準の推進、スチームトラップ・空調機器・圧縮空気の漏洩・保温配管の熱損失等の各種点検を実施
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1216) 技術棟空調機器更新	技術棟空調器更新による燃料削減 GHP→電気式 (29年度 140 t-CO2/年 削減)	2013 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) D変電所更新	平成27年度にD変電所を更新。 (50 t-CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) A変電所への電力改善システム設置	平成27年度にA変電所へ電力改善システムを設置。 (43 t-CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) C変電所への電力改善システム設置	平成27年度にC変電所へ電力改善システムを設置。 (35.0t-CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1122) タンクヤード加温方法見直し	平成27年度にタンクヤードのトレース加温方法を変更 (24 t-CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) D変電所への電力改善システム設置	D変電所への電力改善システム設置にて電力を削減する。 (48 t-CO2/年 削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) B変電所への電力改善システム設置	B変電所への電力改善システム設置にて電力を削減する。 (29年度 40 t-CO2/年 削減)	2017 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 冷却塔更新及びインバーター化	冷却水用の冷却塔を更新+インバーター化することにより電力を削減する。 (10 t-CO2/年 削減する) *平成30年に変更	2018 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) E変電所への電力改善システム設置	E変電所への電力改善システム設置は、平成31年に変更した。	2019 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) ターボブロワーの更新	2次廃水処理設備のターボブロワー更新は平成31年に変更。	2019 年度 ～ 2019 年度
		人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 局所排気ブローの運用変更	平成27年度より、局所排気ブローの運用方法を変更 (70t -CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	堺工場	コード (1212) 原料加温方法の変更	平成27年度にドラムウォーマーを導入し運用開始 (28t -CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	堺工場	コード (1212) 原料加温方法の変更	平成27年度にヒーターBOXを設置 (15t -CO2/年 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
	レ	GHG排出		コード (1126)	平成27年度よりボイラ給水加温用エコキュート	2015 年度

14	レ	人工排熱	堺工場	エコキュートの運用変更	の設定温度を変更 (17t -CO2/年 削減)	～ 2015 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 局所排気ブローの不要時停止	局所排気ブローの不要時停止 (31t -CO2/年 削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	堺工場	コード (1123) 脱臭炉給水温度の最適化	脱臭炉給水温度最適化による都市ガス削減 (62t - CO2/年 削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
17	レ	GHG排出	堺工場	コード (1122) 炉筒ボイラの蒸気乾き度改善	炉筒ボイラの蒸気乾き度改善による燃料削減 (29年度 63t - CO2/年 削減予定)	2017 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
18	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1113) 空調機器の運用方法変更	サーバー室及び電話交換機室の空調機器の運転方法変更	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	堺工場	コード (1212) 原料加温方法の変更	新規ヒーターBOX導入による加温蒸気の削減 (29年度 37t - CO2/年 削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2113) 営業車ハイブリッド化推進	営業車のハイブリッド化を推進し、全車ハイブリッド化する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋三丁目7番20号	氏名	DIC [®] ファイックス株式会社 代表取締役社長執行役員 谷上浩司
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		印刷インキ・印刷関連機材製造販売。東京に本社を置き、全国9工場で生産活動を展開している。大阪府には、枚方市に関西工場を置き、製造活動を展開している。平成21年10月1日にDIC株式会社、ザ・インクテック株式会社双方のインキ事業を分割し、共同で新会社を設立した。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,483 t-CO ₂	3,168 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,927 t-CO ₂	3,568 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	6.9%	10.8%
削減率(平準化補正ベース)		-	7.1%	15.3%	10.9%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

抑制対策No.6、8、12を推進。諸般の事情により、前年と比較して設備改善は減少した。平成28年度実施した対策No.4、6、9の効果が継続した。
 夏季は、前年と同様に一部生産部門で機械運転時間調整を行い、11時～14時のピーク時間帯のデマンド削減を行った。
 平成28年度は、電力契約先をTCSとして、CO₂排出量の大幅な削減となったが、平成29年度は、グループ会社全体の方針に従い、契約先を関西電力に戻したため、エネルギー原単位の削減は図れたが、CO₂原単位は増加した。

3年の実績として、3%削減目標に対して10.8%の大幅な削減が達成できた。

(2) 推進体制

事業所活動において、ISO14001マネジメントシステムを採用し、工場長を最高経営層として事業所内組織を組成して環境活動を推進している。省エネ推進委員会を設置し、年間削減テーマを選定し、進捗管理を行なっている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西工場	コード (1113) 生産機械の運用改善	生産機械の運転管理を推進する。 ①生産効率改善による運転時間短縮。 ②製品処方変更による機械運転時間短縮。 ③不要時、機械停止の徹底。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) インバーター化推進	インバーター化推進 ①ポンプ類のインバーター化 ②ファン類のインバーター化	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西工場	コード (1299) 最適生産機器の選択導入	製造品目・製造サイズにより、最適な生産機を導入していく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西工場	コード (1122) 冷却水システム改善	生産機械冷却水システムの機器更新とともに、システム改善を行い、冷却効率改善を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西工場	コード (1114) 生産機の処理効率改善	3本ロール(生産機)を生産品目に合わせて研磨整備し、処理効率を高める。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	関西工場	コード (1218) 照明設備の改善	経年劣化した照明器具を更新し、電力量削減を図る。 ①更新時機器のLED化 ②センサー付自動消灯採用	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	関西工場	コード (1126) 老朽化設備の更新による効率改善	生産機器のメンテナンス時期に合わせて、経年劣化したモーターのトップランナーへの更新を行い、効率改善を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) 生産機の処理効率改善	分散攪拌機のインバーター化により、最適回転数にて生産を行い、消費電力改善を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) インバーター化による効率改善	コンプレッサー更新時期において、インバーター式に変更し、負荷変動に対応することで、効率化を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	関西工場	コード (1211) 蒸気ボイラーの効率化による燃料削減	灯油炉筒煙管ボイラーをガス炊貫流ボイラーに更新し、効率改善を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	関西工場	コード (1216) 老朽化設備の更新による効率改善	老朽化空調機の更新による効率改善	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12		GHG排出	関西工場	コード (5121) 一部作業場所のシフト勤務	事業所の電力使用量ピークとなる11時～14時を避けて、工場1棟をシフト勤務とした。約10%のピークシフト。	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	関西工場	コード (1216) 老朽化設備の更新による効率改善	老朽化チラーの更新による効率改善	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(4)その他の抑制対策

省エネ推進委員会により実施テーマの進捗管理を行っている。
エネルギー使用状況を、月別・建物別に集計し、毎月該当場所にフィードバックすることにより、各人の意識啓蒙を図る。

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市大正区船町1-3-47	氏名	テイカ株式会社 代表取締役社長 名木田 正男
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		各種化学工業薬品（界面活性剤・各種硫酸・無公害防錆顔料・酸化チタン他）の製造販売を行っており、国内に3工場（大阪府内1工場・岡山県内2工場）、大阪に本社、東京に支店があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	8,022 t-CO ₂	8,837 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,304 t-CO ₂	9,520 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	2.0%	-3.4%	3.6%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-3.4%	3.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>全温室効果ガス排出量(t-CO₂)を大阪工場の生産量(千t)で割ることにより、生産量基準原単位を(t-CO₂/千t)を設定しました。</p>	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>計画を策定し対策を実施したが、コジェネレーション設備廃止によるエネルギー使用量増加の影響が大きく、その原単位は、基準年(平成26年)から1.8%増加し、温室効果ガス総排出量も815t-CO₂増加した。</p>
--

(2) 推進体制

大阪工場は平成12年に環境マネジメントシステムの認証を取得し、同システムの活動において省エネルギーの推進を継続しています。年間の活動状況は、内部監査、マネジメントレビューの実施により、進捗状況を把握するとともに、3ヶ月毎に報告書を作成し、年間目標が達成できるように計画見直し等の検討も実施しております。また、毎月の工程毎のエネルギー消費量を会議にて報告するとともに、省エネ目標に対する達成状況を定期的に確認し、省エネルギーの推進に努めています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 省エネベルト導入	Vベルト駆動装置への省エネベルト導入 (工場全般) 11t-CO2/年 (原油4kL/年) ⇒継続検討するも費用対効果が見込めず H28年度取りやめ	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 省エネ型スチームトラップへの取り替え	省エネ型スチームトラップへの取り替え推進 (工場全般) 34t-CO2/年 (原油13kL/年) 削減 ⇒継続検討するも費用対効果が見込めず	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) LED照明導入	屋外照明LED化 (工場全般) 2t-CO2/年 (原油1kL/年) ⇒H27年度実施済	2015 年度
	レ	人工排熱				2018 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) 冷却水をタワー水に転換	冷却水をタワー水に転換することによるチラー電力削減 (アルキルサルフェート製造工程) 56t-CO2/年 (原油28kL/年) ⇒H27年度実施済	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 工業用水ポンプのインバーター化	工業用水ポンプ インバーター化 (工場全般) 2t-CO2/年 (原油1kL/年) ⇒H27年度実施済	2015 年度
		人工排熱				2015 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 焼成炉 熱風循環ファン インバーター化 (トリポリリン酸アルミニウム製造工程) 76t-CO2/年 (原油38kL/年) ⇒H27年度実施済	焼成炉 熱風循環ファン インバーター化 (トリポリリン酸アルミニウム製造工程) 76t-CO2/年 (原油38kL/年) ⇒H27年度実施済	2015 年度
		人工排熱				2015 年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) LED照明導入	硫酸工場 照明LED化 (硫酸製造工程) 4t-CO2/年 (原油2kL/年) ⇒H27年度実施済	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) LED照明導入	アルキルベンゼンスルホン酸製造設備 AD工場内 照明LED化 26t-CO2/年 (原油13kL/年) 削減 ⇒H28年度実施済	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
9	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) ガスブロワーのインバーター化	アルキルベンゼンスルホン酸製造設備 S-1ガスブロワーインバーター化 12t-CO2/年 (原油6kL/年) 削減 ⇒H28年度実施済	2015 年度
		人工排熱				2016 年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 高効率トランスへの更新	工場一般 高効率トランスへの更新 6t-CO2/年 (原油3kL/年) ⇒H29年度実施済み	2016 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 高効率トランスへの更新	トリポリリン酸アルミニウム製造工程 高効率トランスへの更新 6t-CO2/年 (原油3kL/年) ⇒H30年度実施予定	2017 年度
	レ	人工排熱				2018 年度
		平準化				
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) メインブロワー更新による省電力化	アルキルサルフェート製造設備 メインブロワー更新による省電力化 83t-CO2/年 (原油41kL/年) ⇒H29年度実施済み	2017 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
-----	-----------------------------	--	------	------	-------	---------------

1	レ	GHG排出	本社	コード (2114) 自動車の維持管理	自動車の維持管理を継続する。 ⇒継続中	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を継続する。 ⇒継続中	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区大淀中1丁目1番20号	氏名	株式会社フェルwynコーポレーション 代表取締役 森田 雅実
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にホテル業を営んでおり大小宴会場及びレストラン、フィットネス施設等を有している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	6,670 t-CO ₂	6,290 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,741 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	5.3 %	6.5 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	6.3 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>客室照明のLED化、厨房冷蔵庫・冷凍庫の高効率機器の導入、インバウンド増及び高稼働率の状況下では有ったが、CO₂削減を行う事が出来た。次期計画年度も引き続きLED化、高効率冷蔵・冷凍庫の導入を図りたい。今年度からは、バックエリアのLED化を更に推進する。</p>

(2) 推進体制

施設管理部が主導し、社長・総支配人を中核に、省エネルギー推進委員会を通じ、設備投資・省エネ啓蒙活動を推進して参ります。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1112) BEMS活用によるエネルギー管理強化	BEMS装置を活用し、設備ごとにエネルギー管理や運用状況を掌握し、エネルギー管理を強化する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1216) 空調機変風量制御	空調機にインバーター装置を駆使し、室内環境に応じて回転数制御を実施、低負荷時の搬送動力の低減を図る。回転数は室内温度、室内CO2濃度により、制御を行う。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1216) 外調機変風量制御	外調機にインバーター装置を駆使し、室内環境に応じて回転数制御を実施、低負荷時の搬送動力の低減を図る。回転数は室内温度、室内CO2濃度により、制御を行う。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1217) 排気ファン変風量変調	排気ファンインバーター装置を駆使し、駐車場境に応じて回転数制御を実施、低負荷時の搬送動力の低減を図る。回転数は室内CO濃度により、制御を行う。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1218) 照明LED推進	客室内3314個、客室廊下1052個、状況が許せば駐車場照明887個をLED化し、CO2削減を目指す。上記は変更中。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1123) 蒸気廃熱利用の検討実施	使用した蒸気の廃熱温水を貯湯槽給水系統の昇温に利用可能か検討を行い、可能な場合は廃熱利用を行う。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1217) 換気式熱交換器設置	1Fロビーに換気式熱交換器が設置可能か、検討を行い、実施可能であれば設置する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市永和2-7-30	氏名	社会福祉法人 天心会 理事長 東 司
特定事業者の主たる業種		85社会保険・社会福祉・介護事業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		小阪病院：精神科・神経科・内科（537床）デイケアセンター他 救護施設 フローラ：救護施設（90床） 看護専門学校：3年課程全日制（定員50名） 特別養護老人ホーム ヴェルディ八戸ノ里：全個室（100室） 他		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,569 t-CO ₂	3,799 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,607 t-CO ₂	3,842 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-0.6 %	-6.5 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.5 %	-6.8 %
吸収量による削減率		-	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(延べ床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

・冬季の空調機負荷の増加によりエネルギー使用量が増加し削減に至らなかった。

(2) 推進体制

<p>・週一回の定例会議にて空調管理の徹底及び不要照明消灯等の協力要請を行う。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1122) 空調設備・ボイ ラー設備の適正 運用	セントラル式温度設定のみではなく個別運転機 器について管理を徹底する	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ~ 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策
